2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　Ｈｍｃｏｍｍ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　265A　　ＵＲＬ　https://hmcom.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長CEO　　（氏名）三本　幸司
問合せ先責任者　（役職名）取締役常務執行役員CFO　　（氏名）土屋　学　　ＴＥＬ　03(6550)9830

配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	1,103	－	47	－	50	－	12	－
2025年12月期第３四半期	－	－	－	－	－	－	－	－

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　12百万円（－%）　2025年12月期第３四半期　－百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	3.00	2.95
2025年12月期第３四半期	－	－

（注）当社は、2026年12月期中間期より中間連結財務諸表を作成しているため、2025年12月期第３四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	1,987	1,696	85.0
2025年12月期	－	－	－

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　1,688百万円　2025年12月期　－百万円

（注）当社は、2026年12月期中間期より中間連結財務諸表を作成しているため、2025年12月期の数値については記載しておりません。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2026年12月期	－	0.00	－		
2026年12月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,550	―	101	―	100	―	31	―	7.92

（注）１.直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

２.業績予想修正の詳細は、本日（2026年11月13日）公表しております「2026年12月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

３.当社は、2026年12月期中間期より中間連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規　1社　（社名）コラボテクノ株式会社、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

② ①以外の会計方針の変更　：無

③ 会計上の見積りの変更　：無

④ 修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	4,097,400株	2025年12月期	4,097,400株
② 期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	64,000株	2025年12月期	64,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	4,033,400株	2025年12月期３Ｑ	4,093,942株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 5
四半期連結損益計算書 …… 5
四半期連結包括利益計算書 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更） …… 7
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 7

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

当社は、2026年12月期中間期より中間連結財務諸表を作成しているため、前第３四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加等を背景に、全体としては緩やかな景気回復の流れにあります。一方で、中東情勢の緊迫化に伴う原油・エネルギー価格の上昇や物価高の継続、円安による輸入コストの増加、金融政策の動向、金融資本市場および為替相場の変動などにより、景気の先行きは依然として予断を許さない状況が続いています。海外においても、AI関連投資を中心に底堅い動きが見られる一方で、地政学的リスクの長期化や中国経済の停滞、米国の通商・関税政策を巡る動向など、不透明感は継続しております。こうした環境下、投資促進の動きやDX（デジタルトランスフォーメーション）推進、カーボンニュートラル対応といった構造的変化への取り組みが進展しております。

こうした経営環境のもと、当社は当第３四半期連結累計期間においては、AIを活用した開発プロセスおよび本社業務の抜本的な改革により収益構造改善を推進しております。生成AIを活用した自社統合開発環境「FD-X（Flexibility Design X-Transformation / Expedition）」の導入による開発生産性の向上と売上原価率の低減に取り組んでおります。また、AIを活用した本社業務改革「NaNa（Next-Headquarters AI-driven Navigator for Administration）」の推進による販管費の適正化も進めております。さらに、後述のAIソリューション事業における次世代AI実装事業の展開により、収益性の高い案件構成への転換を進めております。これらの施策が複合的に寄与し、原価・費用構造の効率化が進むなど、収益構造の改善が前進いたしました。

AIプロダクト事業では、従来の単一プロダクト提供から、共通基盤「Voice AI Agent Platform（VAAP）」上に各種業務特化型AIエージェントを展開するプラットフォームモデルへの転換を本格化させております。2026年９月にはVAAPの公式展開を開始し、ストック収益（ARR：Annual Recurring Revenue）の拡大に向けた事業基盤の強化を推進いたしました。

「Voice Contact(Contact Agent)」は、基盤拡張案件やライセンス更新を通じて、利用の拡大を図っております。また、「Terry2（Front Agent）」関連につきましては、2026年４月に提供を開始したSaaS型「Terry２mini」が新たにケーブルテレビ株式会社へ導入されたほか、同年７月にはニーズウェル株式会社との連携により自治体・バックオフィス向け共同提案活動を開始いたしました。さらに、株式会社DNPコアライズとの「AI×オペレーター」ハイブリッド型窓口の実証開始、カスハラ（カスタマーハラスメント）対策AIエージェントの提供開始、ならびに有事の際に迅速な対応体制を立ち上げる「VAAP 緊急AI問い合わせ窓口」の試行提供など、社会課題や顧客ニーズに即した迅速な機能拡充・実用化を進めております。

「ZMEETING(Meeting Agent)」は、強固なセキュリティや閉域環境での運用を求めるエンタープライズ需要に対し、VAAP構想に基づく完全オンプレミス型議事録基盤「ZBOX Light β版」の開発および導入支援キャンペーンを開始し、さらなる顧客基盤の開拓を図っております。

「FAST-D(Industrial Agent)」は、インフラ保全領域での社会実装およびビジネスモデルの進化が進展しております。2026年６月に四国電力株式会社へ「FAST-Dモニタリングエディション」の提供を開始したことに続き、同年８月には東邦ガスエナジーエンジニアリング株式会社において熱供給関連設備の監視を開始いたしました。自治体インフラ分野では、滋賀県守山市との衛星データを活用したAIによる水道管漏水検知の取り組みが2026年４月に社会実装フェーズへ移行し、当第３四半期においては、同市での実証で得られた知見を活かしたAI漏水監視プラットフォームの構想を他の自治体に向けて発表するなど、他自治体への展開に向けた取り組みを進めております。加えて、車両巡回により広域の漏水データを収集する「ドライブバイ方式」の特許出願と大手運送会社との実証協議を開始いたしました。さらに、株式会社Braveridgeとのハードウェア技術連携や、下水道インフラ保全への領域拡張を推進するなど、社会インフラ監視プラットフォームとしての展開を本格化させております。

AIソリューション事業では、顧客企業のDX推進に向けたAI開発・コンサルティングにおいて、大型案件の受注が概ね計画通りに進捗しております。2026年５月には、顧客の課題整理・要件定義からAIの開発・実装、運用定着までをFDE（Forward Deployed Engineer）チームが担当し、一気通貫で支援する次世代AI実装事業を開始いたしました。本事業の推進にあたっては、AIプロダクトの開発・運用・実装体制の垂直統合を目的として、2026年５月にシステム開発を手掛けるコラボテクノ株式会社の株式を取得し子会社化しております。現在は、同社のエンジニアリングリソースを活用したFDE体制の構築を進めております。同年９月からは、同社エンジニア約30名を対象に、生成AIを開発工程に組み込むAI駆動開発の実践を通じてFDEとしての実装力を高める「AI-FDE高度化プロジェクト」を開始いたしました。これらの取り組みにより、相対的に収益性の高い付加価値案件の受注比率が上昇し、今後のストック収益化を見据えた事業基盤の構築を進めております。

これらの結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は1,103,747千円、営業利益47,791千円、経常利益50,642千

円、親会社株主に帰属する四半期純利益12,112千円となりました。

なお、当社は『ＡＩ×音』サイエンス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における流動資産合計は1,376,177千円となりました。主な内訳は、現金及び預金1,041,965千円、売掛金及び契約資産318,882千円、前払費用等その他の流動資産15,328千円であります。また、固定資産合計は611,204千円となりました。主な内訳は、のれん341,857千円、繰延税金資産176,669千円、敷金等その他の投資その他の資産54,160千円、ソフトウエア等その他の無形固定資産37,123千円であります。この結果、資産合計は1,987,382千円となりました。

（負債）

当第３四半期連結会計期間末における流動負債合計は266,486千円となりました。主な内訳は、買掛金138,246千円、未払費用44,158千円、未払金35,465千円、未払法人税等11,781千円、１年内返済予定の長期借入金6,180千円、アフターコスト引当金5,853千円、賞与引当金3,503千円であります。また、固定負債合計は24,161千円となりました。主な内訳は、長期借入金23,690千円であります。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末における純資産合計は1,696,735千円となりました。主な内訳は、資本金222,575千円、資本剰余金1,107,273千円、利益剰余金424,867千円であります。この結果、自己資本比率は85.0％となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の業績予想につきましては、2026年８月14日に公表した数値から変更しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「2026年12月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	当第３四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,041,965
売掛金及び契約資産	318,882
その他	15,328
流動資産合計	1,376,177
固定資産	
有形固定資産	1,393
無形固定資産	
のれん	341,857
その他	37,123
無形固定資産合計	378,981
投資その他の資産	
繰延税金資産	176,669
その他	54,160
投資その他の資産合計	230,829
固定資産合計	611,204
資産合計	1,987,382
負債の部	
流動負債	
買掛金	138,246
１年内返済予定の長期借入金	6,180
未払金	35,465
未払費用	44,158
未払法人税等	11,781
賞与引当金	3,503
アフターコスト引当金	5,853
その他	21,295
流動負債合計	266,486
固定負債	
長期借入金	23,690
繰延税金負債	471
固定負債合計	24,161
負債合計	290,647
純資産の部	
株主資本	
資本金	222,575
資本剰余金	1,107,273
利益剰余金	424,867
自己株式	△66,368
株主資本合計	1,688,348
新株予約権	80
非支配株主持分	8,306
純資産合計	1,696,735
負債純資産合計	1,987,382

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	1,103,747
売上原価	660,709
売上総利益	443,038
販売費及び一般管理費	395,246
営業利益	47,791
営業外収益	
受取利息	2,835
助成金収入	1,000
その他	1,185
営業外収益合計	5,021
営業外費用	
支払利息	133
寄付金	2,000
その他	37
営業外費用合計	2,170
経常利益	50,642
特別損失	
事務所移転費用	576
その他	0
特別損失合計	576
税金等調整前四半期純利益	50,066
法人税、住民税及び事業税	10,550
法人税等調整額	26,708
法人税等合計	37,258
四半期純利益	12,807
非支配株主に帰属する四半期純利益	695
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,112

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	12,807
その他の包括利益	
その他の包括利益合計	－
四半期包括利益	12,807
（内訳）	
親会社株主に係る四半期包括利益	12,112
非支配株主に係る四半期包括利益	695

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、「ＡＩ×音」サイエンス事業のみの単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

中間連結会計期間において、コラボテクノ株式会社の株式を取得したことにより子会社となったため、同社を連結の範囲に含めております。

なお、みなし取得日を2026年６月30日としており、中間連結会計期間においては貸借対照表のみを連結し、当第３四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	4,178千円
のれんの償却額	42,498千円